

## 定期報告(ウルグアイ内政・外交:2020年7月)

### 1 ポイント

#### 【内政】

- 1日、タルビ外務大臣が辞任を表明。
- 6日、ブスティージョ外務大臣の就任。
- 6日、フェレス大統領府副長官は、ダニエル・ラディーオ氏が大統領府麻薬委員会(JND)会長に就任する旨発表。両名は医療大麻商工会議所の代表団を迎え、医療大麻の輸出を規制する政令改正を検討するための委員会の設置を決定。
- 7日、ミエレス労働社会保障大臣は記者会見で、政労使の三者賃金審議会が2021年までの賃金評議会の給与規則について合意に至った旨発表。
- 8日、緊急検討法の成立。
- 19日、コロラド党シウダダノス派のペニャ氏が新設される環境省の大臣に内定。
- 26日、タルビ上院議員(コロラド党シウダダノス派)は政界を離れる旨発表。

#### 【外交】

- 2日、ラカジェ・ポウ大統領はメルコスール首脳会議に出席。同会議でウルグアイが議長国に就任。
- 8日、ラカジェ・ポウ大統領は国際労働機関(ILO)のバーチャルサミットに出席。
- 14日、ブスティージョ外務大臣はアナ・テレサ・アジャラ氏を在スペイン大使に任命する旨発表。
- 20日、ブスティージョ外務大臣は外務省の今後の方針に関し説明した記者会見にて「ベネズエラは独裁政権である」と発言。
- 14日～15日、ラカジェ・ポウ大統領は亜のテレビ局及びラジオ番組のインタビューを受けた。
- 22日、中国と中南米及びカリブ諸国のテレビ外相会合が実施され、ブスティージョ外務大臣が出席。

### 2 本文

#### 【内政】

##### 1 最新の世論調査結果

7月に発表された内政に関する国内大手コンサルタント会社による各種世論調査結果は次のとおり。

- (1)10日、Equipos社が公表した政権支持率調査結果は63%(不支持率16%)となり、5月の前回調査から支持率には変化はなく、不支持率が2%減少した。
- (2)16日にOpcion社が公表した政権支持率調査結果によると、59%が政権運営を「良い」もしくは「非常に良い」と評価しており、支持率は同社が5月に実施した調査結果(62%)から若干減少した。
- (3)17日にCifra社が公表した調査結果によるとラカジェ・ポウ政権支持率は66%で、政府の新型コロナウイルス感染症対策については支持率81%であった。

##### 2 タルビ外務大臣の辞任

1日午後、タルビ外務大臣は自身のTwitter上に辞任を表明するラカジェ・ポウ大統領宛書簡を掲載し、同書簡にて「メルコスール・EU及びEFTAとのFTA署名、カナダ、シンガポール、韓国との交渉再開のためウルグアイがメルコスール議長国を務める年末まで外務省での勤務継続を希望していたが、閣僚の任期は大統領が決定するものと理解し、辞任を表明する。

現政権にとってより適切と思われる外務大臣任命を妨げることは望まない。複雑な案件を抱えるこの時期に外務省からウルグアイ国民に奉仕できたことを嬉しく思う」と述べた。ウルグアイが議長国に就任するメルコスール首脳会議を翌日に控えての辞任となった。

### 3 ブスティージョ新外務大臣の就任

5日に前任地のスペインから帰国したブスティージョ新外務大臣は、出入国措置規定に従って自宅で隔離を実施しつつ、6日、デルガド大統領府長官及び政府公証人立ち合いのもと自宅で就任証明書に署名し外務大臣に就任した。隔離期間中はズームを使用して会合を実施し、13日に外務省に初登庁した。

### 4 医療大麻輸出規制緩和に向けた動き

6日、フェレス大統領府副長官は、ダニエル・ラディーオ氏が大統領府麻薬委員会(JND)会長に就任する旨発表した。同麻薬委員会会長は、大麻の植栽、栽培、収穫、生産、加工、備蓄、供給を規制する目的で設立された大麻規制管理庁(IRCCA)会長も務める。

同日、フェレス大統領府副長官及びラディーオ大統領府麻薬委員会会長は医療大麻商工会議所の代表団を迎え、医療大麻の輸出を規制する政令の改正を検討するための委員会の設置を決定した。フェレス大統領府副長官は記者会見にて、医療大麻産業は投資と開発を伴う雇用の創出を促進する成長産業であると指摘し、ラカジェ・ポウ大統領は同産業の可能性、製品の品質及び現在の規制の枠組みに鑑み、国のブランドにすることを目的に促進する旨決定したと述べた。また、開発強化のため大統領府麻薬委員会、大麻規制管理庁(IRCCA)、厚生省、農牧水産省、工業エネルギー鉱業省と協働し、医療大麻産業の効率改善のため法的枠組みを改善し、特に輸出における最大限の発展を目指す旨述べ、大麻産業全般を促進し、同産業が世界で際立つウルグアイの新たな産業となるようにする考えであると主張した。

### 5 三者賃金審議会で合意

7日、ミエレス労働社会保障大臣は記者会見で、政府、商工会議所、国内労働総連盟(PIT-CNT)の代表での三者賃金審議会は2021年までの給与規則について合意に至った旨発表した。約60万人の労働者に適用される本合意は、2021年から3%の給与上昇を含んでおり、最も給与が安い部門にはさらに1%追加される。建設、保健及び運輸部門については本合意から除外されており別途交渉される。

### 6 緊急検討法の成立

8日、下院議会で32の修正が加えられ上院議会で再審議されていたラカジェ・ポウ政権の主要政策の1つである緊急検討法案は、最終的に31票中18票の賛成票をもって承認された。緊急検討法は8日午後に行政府に送られ、10日、行政府は同法を公布した。連立与党内で調整され4月23日に上院議会に提出された緊急検討法の原案は全501条で構成されていたが、議会で修正や削除が行われ、最終的に行政府によって公布された緊急検討法は全476条で、①治安、②国家戦略情報局、③教育、④経済、⑤公営企業、⑥国家の効率、⑦農業セクター、⑧労働関係及び社会保障、⑨社会開発及び保健、⑩住宅の緊急性に関する規則、⑪民法及び様々な規定の修正といった11のセクションで構成されている。

野党拡大戦線(FA)は、緊急検討法案の議会提出当初から同法案全体に対して反対意見を表明しており、広範な議題を扱うための期間の短さと時期の不適切性に疑問を呈した。

調査会社Cifra社のポミエス社長は、ラカジェ・ポウ大統領は政府の計画の大部分を緊急検討法案に盛り込んでいたため、今次法案成立は同大統領にとって大きな勝利であるとし、連立与党が結束を維持するための鍵であったと述べた。また、衛生危機の状況下で法案に反

対する大規模なデモがなかった点も法案成立に有利に働いたと指摘した。

## 7 新設される環境省の大臣内定

19日、緊急検討法案により新たに設置が決まった環境省の大臣職にコロラド党シウダダノス派のペニャ上院議員の就任が内定した。次官には国民党のアマリージャ下院議員が就任する見込み。当初、同下院議員の環境大臣への任命が検討されていたが、コロラド党に所属するタルビ前外務大臣の辞任後に調整された。ペニャ次期環境大臣は新設される環境省のリソースを事前に交渉する考えで、予算法案の議会提出期限である8月31日までの就任を目指す。

## 8 タルビ上院議員の辞任表明

26日夜、タルビ上院議員(コロラド党シウダダノス派)は議員を辞任し政界を離れる決断をした旨関係者に対しWhatsAppを通じて書簡を送付した。27日、コロラド党シウダダノス派は指導者辞任後の方針に関し協議するために会合を開催し、その後の記者会見で同党派は今後も連立与党を支持する旨強調した。

## 【外交】

### 1 メルコスール首脳会議

2日、ラカジェ・ポウ大統領は、テレビ会議を通じたメルコスール首脳会議に出席し演説を行った。同会議にはデルガド大統領府長官、アルベレチェ経済財務大臣、アチェ暫定外務大臣が同席した。今次会議を境に2020年下半期はウルグアイが議長国を務める。

ラカジェ・ポウ大統領は、メルコスール加盟国はメルコスール現実主義者(mercorrealista)になり、まずは加盟国間の関係を誠実なものにすべきであると強調し、自由貿易地域内での取り組み、域内産品の国内処理強化、関税同盟改善の必要性を指摘した。EU及びEFTAとのFTA署名に向けた取り組みについては現在最終段階にあり、協定の署名及び批准の迅速化のため、メルコスール議長国としてドイツ政府と協働することを約束した。米国および中国との関係に関しては、どちらか一方のみに接近することはできないと強調した。

### 2 8日、国際労働機関(ILO)のバーチャルサミット

8日、ラカジェ・ポウ大統領は国際労働機関(ILO)のバーチャルサミットに出席した。主に新型コロナウイルス感染症拡大及び同感染症の雇用への影響について議論され、ラカジェ・ポウ大統領は、ウルグアイのモデルは経済の原動力を止めないことを目標としていると述べ、部分的失業保険の実施等、政府が講じた措置を強調した。

### 3 ウルグアイ・ブラジル間消費者保護に関する技術協力協定

7月13日、バネリオ在伯ウルグアイ大使及びメンドンサ伯法務・公安大臣は、迅速な消費者紛争解決を促進する目的で消費者と企業の直接対話を可能にするオンラインツールである「Consumidor.gov.br」の技術及び知識移転のための協定に署名した。同協定は2019年12月に承認されたメルコスール加盟国における消費者紛争解決のためのデジタルプラットフォームの開発と統一化のための行動計画の一部であり、消費者保護に関するウルグアイとブラジルの関係を強化するもの。式典はブラジリアの司法宮殿で実施され、イラストルサ経済財務次官等がオンライン形式で出席した。

### 4 在スペイン大使及び在バチカン大使の任命

14日、ブスティージョ外務大臣はアナ・テレサ・アジャラ氏を在スペイン大使に任命する旨発表した。同氏はキャリア外交官で、ブスティージョ外務大臣とは在アルゼンチン大使館や在ス

ペイン大使館で業務を共にした。タルビ前外務大臣は同氏を在バチカン大使に任命していたが、在バチカン大使には最終的にフランシスコ・ローマ教皇と交友のあるグスマン・カリキリ氏が任命された。

#### 5 亜のメディアによるラカジェ・ポウ大統領インタビュー

14日、ラカジェ・ポウ大統領は亜のテレビ局「Todo Noticias」及びラジオ番組「Radio Mitre」、15日にテレビ局「Canal 9」のインタビューを受け、ウルグアイにおける新型コロナウイルス感染症対策、パンデミック終息後の移住促進等について発言した。14日、「Todo Noticias」でアルフレド・レウコ記者によるラカジェ・ポウ大統領インタビューが始まると、ツイッター上では3,500人以上のユーザーが同大統領の発言に関する書き込みを行い、約70分間のインタビューの後関連する書き込みは53,000件以上に増加した。自由の概念の中でも特にラカジェ・ポウ大統領が自身を「社会的感受性を伴う自由主義者」と定義した発言についてのコメントが最も多く、160以上の記事で取り上げられた。14日のラカジェ・ポウ大統領のテレビ及びラジオ出演の後、ソーシャルメディア上では7月9日亜独立記念日の際のフェルナンデス亜大統領の演説以上の反響があった。

#### 6 ブスティージョ外務大臣のベネズエラに関する発言

20日、ブスティージョ外務大臣は外務省の今後の方針に関し説明した記者会見にて「ベネズエラは独裁政権である」と発言した。同外務大臣は、ウルグアイは引き続きベネズエラ問題解決のために組織されたグループのメンバーとして活動していくが、一方が意欲的でない対話をこれ以上追求するつもりはない。ウルグアイは世界の警察ではないので、独裁政権を指摘、訴追することはしないと述べた。一方、米州機構(OAS)をはじめとする各国際フォーラムの場及び意見を表明する場でウルグアイの立場を明らかにしていく旨発言した。

#### 7 中国、中南米及びカリブ諸国のテレビ外相会合の実施

22日、新型コロナウイルス感染拡大に関する中国、中南米・カリブ諸国間の関係及び協力を強化する目的で、中国と中南米及びカリブ諸国のテレビ外相会合が実施された。ブスティージョ外務大臣は同会合の中で、新型コロナウイルス感染拡大に対してウルグアイが得た経験に基づき、特に科学、技術、革新の分野での国際協力が重要な役割を果たす旨強調した。

ブスティージョ外務大臣は、一帯一路戦略の分野で、ウルグアイは特に中国と食料安全保障の構築における同盟国になりたい旨述べた。また、ブスティージョ外務大臣は中国政府に対し、今次衛生緊急事態における同政府からウルグアイへの大量の医薬品の寄付に感謝の意を再度表明した。

#### 【要人往来】

- 往訪
- 特になし
- 来訪
- 特になし

(了)